



EL SALVADOR

学校名：千葉県立佐倉南高等学校

氏名：小島江津子

[担当教科：地理B]

- 実践教科等：全校集会、地理B
- 時間数：4回
- 対象生徒：1年生5クラス
- 対象人数：204人

[1]単元名

エルサルバドルの次期大統領選挙に立候補しよう

[2]単元の目的/目標（ESDの能力・態度）

- ・エルサルバドルの現状・問題点を写真資料から理解する（批判的に考える力）
- ・エルサルバドルを幸福にするために何をすべきか政策を提案する（未来像を予測して計画を立てる）
- ・貧困、犯罪、人材流出、災害への脆弱性、障害者の人権問題、ゴミ問題などの問題点の連鎖を理解する（多面的、総合的に考える力）
- ・問題点及び対策を整理しながら模造紙にまとめたり、発表したりする（コミュニケーションを行う力）
- ・班別学習による模造紙の完成、発表の実施（他者と協力する態度）
- ・遠い途上国の問題としてではなく、エルサルバドルの大統領になったら国民の幸せのために何ができるかを考える（つながりを尊重する態度）

[3]ESD（持続可能な社会づくり）の視点

多様性	相互性	有限性
公平性	連携性	責任性

- ・エルサルバドルという中米の途上国の様子を知る（多様性）
- ・JICAの支援の実態を知る（連携性）
- ・貧困が犯罪を、犯罪が貧困を招くといった連鎖する状況を知る（相互性）
- ・途上国が豊かになるための対策を考える中で様々な課題を知る（有限性）
- ・遠くて関係ない国のことではなく、私達に何ができるかを考える（責任性）
- ・エルサルバドルの人達にとって幸福な社会を実現することとはどんなことかを考える（公平性）

[4]単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1	【エルサルバドル旅行記】 エルサルバドルってどんな国？海外協力隊の仕事って？（全校集会）	・エルサルバドルという国の概要を理解する ・エルサルバドルの海外協力隊の活動状況を知る	・パワーポイント ・民族衣装	
2	【エルサルバドルの次期大統領選挙に立候補しよう】 立候補するために国の現状・問題点を知ろう（1年地理B）	・貧困、犯罪、人材流出、ゴミ問題、災害への脆弱性、障害者の人権問題の6つの観点から、どんな問題点があるか、それがどのように連鎖しているかを理解する	写真資料	・解説を理解した上で、主体的に取り組んでいるか ・協力して話し合いに参加しているか ・鋭い視点で自分の気付いたことを発言できているか

				机間巡視により、班別学習への取り組み状況を観察する
3	現状・問題点から対策を提案しよう (1年地理B)	・貧困、犯罪、人材流出、ゴミ問題、災害への脆弱性、障害者の人権問題の6つの観点から、どんな対策が行われているかを知り、その上でどんな対策案を提案するかを考え、政策提案をまとめて大統領選のスローガンを決める	写真資料	・解説を理解した上で、主体的に取り組んでいるか ・協力して話し合いに参加しているか ・鋭い視点で自分の気付いたことを発言できているか 机間巡視により、班別学習への取り組み状況を観察する
4	大統領選挙演説 (1年地理B)	・班毎に登壇し、模造紙を掲示して、問題点と政策の発表を行う ・傍聴者は審査を行う ・回収、集計と結果発表をした上で、教員による講評で、良かった点、改善点を確認する	審査用紙	・内容を理解した上で、新しい提案を出すなどの主体的な発表ができているか ・班員相互の協力ができているか ・審査用紙コメント欄から各班の発表をよく観察しているか

〔5〕授業の詳細

1 時限目：【エルサルバドル旅行記】

全校集会において、パワーポイントによる写真・動画映像に解説をつける形式で約30分実施。

- ・スペイン語の簡単な挨拶
- ・エルサルバドルの位置、気候、人口密度
- ・日本との大きな違い：治安の悪さ、銃と有刺鉄線が必要な町
- ・エルサルバドルの食文化（市場の食用バナナ、チーズ、ププサ）
- ・エルサルバドルの人々
- ・人材育成の必要性について

- ・JICA 専門家、青年海外協力隊員の活動内容

カバーニャス県サンイシドロ学校の伊藤隊員

ウスルタン県貝養殖プロジェクトの可児専門家

ラ・ウニオン県メガテックの千村隊員

サンサルバドル市国立工業高校の石橋シニアボランティア

チャラテナンゴ県の理学療法士遠藤隊員

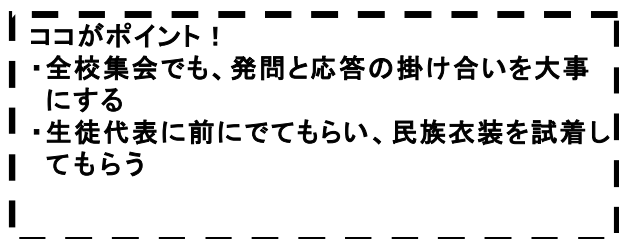
ラ・パス県防災教育の原隊員

- ・地球の裏側の途上国になんのために援助に行くのか？

2 時限目：【エルサルバドルの次期大統領選挙に立候補しよう 現状問題点の把握】

①導入（授業の方針説明）

現大統領フネス氏の写真を提示。ニュースキャスターとして国の現状を見てきた経歴から大統領に



当選したこと、貧困対策の「学校へ行こう」キャンペーンを実施して支持率も高いこと、次の2月で任期が終了することを伝えた。その上で、今回はシミュレーションとして班毎にエルサルバドルの大統領選挙に立候補するとしたらどんな政策を主張するべきか、エルサルバドルの国民を幸せにするには、何をやる人物が良いのか、自分たちが大統領候補になった気になって考えていく授業をしていくことを伝えた。

この単元の評価方法と班分けを伝えた。

②展開:エルサルバドルの現状問題点を知る
模造紙を各班に配布。

写真を各班に提示し、発問と応答の掛け合いをしながら、授業者が整理した6項目のエルサルバドルの現状問題点を理解し、模造紙に書き込みをしていく。

6項目は、貧困、犯罪、人材の流出、ゴミ問題、災害への脆弱性、障害者の人権。

貧困:壊れかけた家や商品や人々の服装の写真から貧困の程度を知る。

犯罪:銃を持ったガードマンと有刺鉄線で、日常的に強盗から身を守る必要があり、治安が悪いこと

人材流出:ATMの行列からアメリカへの出稼ぎ労働が200万人いること、一方で国内には就職先がみつかりにくいこと。

ゴミ問題:ゴミが分別されていないこと、路上のビニルゴミから、先進国の消費文化だけが入ってきてしまっている問題について

災害への脆弱性:幹線道路沿いの表土流出現場、川沿いの住宅の写真から、大雨の際にどのような被害が発生するか。

障害者の人権:脊椎損傷により寝たきりになった人のベッドの写真から。障害者になったら一生ベッドの上で生活するしかないという絶望感について。

ココがポイント!

・5人編成の班で、模造紙に書き込む担当を順番に替えさせるなどして、班での各自の参加意識を低下させない工夫をする

ココがポイント!

・6つの問題点は、相互に連鎖し、貧困が犯罪を招き、犯罪が多いことが経済活動を抑制し、海外への人材が流出してしまうといった、途上国の悪循環に気付かせることで、次の解決策のどこに力点を置くことが解決の突破口となるかを考えやすくする

3 時限目:【エルサルバドルの次期大統領選挙に立候補しよう 対策案の提案】

①前回書き込みした模造紙に沿って内容を確認

②写真を各班に提示し、発問と応答の掛け合いをしながら、海外協力隊の活動内容から、前回の問題点の対策を紹介し、模造紙に書き込みをしていく。

貧困・犯罪・人材流出:「学校へ行こう」キャンペーンの無料給食配布、国立工業高校の実習、100ドルパソコンの写真から、人材育成の重要性について。

ゴミ問題:職業訓練校に設置された4つのゴミ箱の写真から、分別の意識付けについて。

災害対策:防災教育(カエルキャラバン)の実施風景から、防災意識を育てる難しさについて。

障害者の人権:車椅子での移動が可能となった男性とリハビリに関わった青年海外協力隊員の写真から、障害者が人としての尊厳をもって生きられる社会について。

ココがポイント!

・各大臣の仕事は問題点6項目に重複しあうものであること、それをどの分野から解決していくかを話し合うよう指示
・次回発表を前に、聴く側にどう伝えるかを準備するよう指示

③6つの問題点とそれぞれへの対策をもとに、自分達で考えられる対策案を検討しあう。

その際に、各班に教育大臣、経済雇用大臣、福祉厚生大臣、防災大臣、それらを統括する大統領の役割分担を指示し、各大臣がどのような政策を提案するか、検討した上で、大統領が選挙スローガンを提示する。

4 時限目:【エルサルバドルの次期大統領選挙に立候補しよう 立会い演説会】

①審査方法の説明と審査用紙配布。

ココがポイント!

・聴く側の態度と、聴いてもらうための工夫を個別具体的に指導しながら実施

②8班の発表。1班5分以内。

③審査用紙の回収と集計。当選者の発表。

授業者からの講評。(提案内容がよく検討されているか、声量及び、模造紙への書き込み内容の棒読みであるかないか、模造紙の完成度)

〔6〕児童・生徒の反応/変化

以下の(ア)～(ウ)は、生徒が提出した感想文からの抜粋。

エルサルバドルの授業実践だけでなく、これまで地理Bの授業で紹介した国や地域のこと、総合学習で実施した100人村ワークショップの感想も含んでいる。

(ア)途上国に対するネガティブな感想

- ・僕達がエルサルバドル人と比べてどれだけ幸せなのかをよく知らされました。
- ・ゴミだらけでろくな家もなく学校にも行けない貧乏な子供がいてかわいそうだと思った。
- ・銃や有刺鉄線がないと暮らせないなんて日本に生まれて良かったと思った。

(イ)世界の多様性と共存について気づいた感想

- ・国が豊かではないが、一生懸命工夫して自分たちの力で生きていることがすごいと感じた。日本は比較的豊かな環境で食べ物もたくさんあり、食べ残しもたくさんある。途上国のことをもっと考えるべき。
- ・世界は文化も違えば宗教も言語もそれぞれ違う。だからこそ世界中が認め合っていかなければいけないと思います。
- ・日本は他の国と比べたら平和な方なんだと改めて感じた。戦争をしている国や犯罪の多い国もあって、日本も平和だとは言いきれませんが、恵まれてはいるなと思いました。それに、それぞれの国の食文化や宗教などもすごく違って面白いと思いました。

(ウ)南北間格差とその解決について触れた感想

- ・日本やアメリカ等の国は、生活がしやすく余分な物がたくさんある。途上国や難民が多い国のことを私達は考えられていない。もう少し、目を向けたらいいと思う。
- ・自分は世界のことを全然知らないんだと改めて思いました。当たり前のように生活しているけど、生活するのが厳しい国もたくさんあるんだなと思いました。
- ・日本の優れたエンジニアや農業技術者が途上国に教えに行けば、途上国の問題が解決していくと思う。そういうことがしやすいように国がもっと動けばいい。

〔7〕授業実践の成果と課題

世界の多様性に気づき、海外に興味を持つ生徒が増え、留学するにはどうしたらいいか、英語の勉強をしないとだめかといった質問をしてくるようになった。一方で、途上国の様子を知った上で、自分には何ができるか、という点を考えさせる授業ができていなかった。遠い関係ない国としてではなく、主体的に考えてもらうためのシミュレーション学習だったが、感想を読む中で、「優れたエンジニアや農業技術者が途上国に教えに行けば」という文面からして、自分達が優れたエンジニアになるとは思っていない様子が、何事に対しても自信を持ってない本校生徒の正直な気持ちである。「大統領候補になった気になって」という大きな政策論争よりは、エンジニアとして、理学療法士として自分なら何ができるかなどの課題設定が望ましかったのではないかと、もう1時間使って、青年海外協力隊員の仕事を伝えたり、インタビューの映像を見せておくと良かったのではないかと反省している。

また、一緒に行った先生方の授業準備の会話で、「途上国の人は不幸で、日本人は幸福か?」といった話があり、もっと生徒に生き方を問うようなところまでアプローチする授業案にしていければ良かった。

〔8〕参考文献(引用文献・参考資料)

『エルサルバドルを知るための55章』細野昭雄・田中高編、明石書店、2010年

〔9〕使用教材(写真／図などの実物)

① 2時間目 問題点の認識に使用した写真資料

問題点①：貧困



問題点②：犯罪



問題点③：人材流出



問題点④：ゴミ問題



問題点⑤：災害への脆弱性

問題点⑥：障害者の人権



②3 時間目 現状対策の認識に使用した写真資料

無料給食配布



途上国仕様の100ドルパソコン



工業高校で使用していた工作機械と故障した機械

メガテックでのごみ分別箱



防災教育「カエルキャラバン」

上級生が下級生に教える



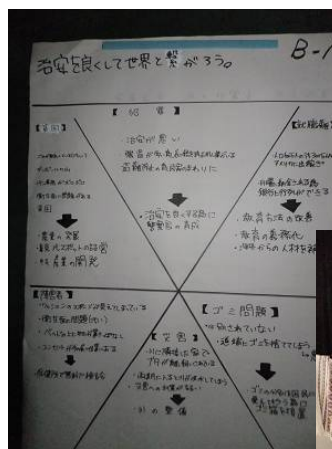
理学療法士遠藤隊員と

車イスのホセさん



授業実践の参考写真

班別学習風景



完成した模造紙の例

社会科教室の展示資料



〔10〕教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

今年度、地理の授業担当になったのをきっかけに、「ツアーで

は決して行けない途上国に実際に行って、見て、聞いて、その国の気候、風土、産業、生活様式、国民性などをたくさん生徒に伝えたい。」それが今回のJICA教師海外研修に応募した第一の動機でした。

そして、もう一つの動機。比較的勉強を苦手とする生徒が多い学校に在職している経験から、生徒には常々「自分のために一生懸命になりなさい」という指導をしてきた。しかし、高度経済成長もバブルも過ぎた日本社会は、むしろ、社会の一員としての自覚をもった個人が互いに助け合う社会へと移行していくべき時代に入っている。教員はそのような人材を育成することがこれからの仕事であると考えようになった。また、自分のことに自信を持てない生徒が部長やHR長といった責任ある役割を担う中で、他人の心配をし、調整し、気付けば自分が成長していたというケースを自覚的に設定することにも繋がった。人のために一生懸命になることは自分を成長させてくれるし、自分を幸せにしてくれる。

今年度、JICAの研修を重ねる中で、「自分のことでさえ、いっぱいいっぱいの生徒に国際理解教育なんて意味がない」といった批判的な声(私の内側にもあった)にNOと言う確信をもつことができた。地球の裏側の遠い途上国のために、自分のできることを駆使して悩み苦しみながら、ポジティブに前に進んでいる青年海外協力隊員の有り様を伝えた私の拙い授業実践が、本校生徒の生き方に

有益なものを与えたと期待している。